

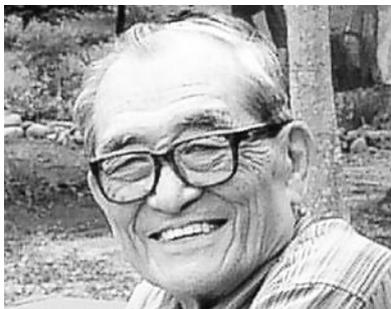
稲次先生の遺されたもの

黒川威人

もと本学会会長の稲次敏郎先生は、長くご病氣療養中でしたが、去る4月4日、84歳の生涯を閉じられました。先生を偲ぶ会が5月17日、上野寛永寺において営まれ、東京芸大関係者はもちろん本学会の青木会長はじめデザイン関係各界の多彩な顔ぶれが集う盛大な会となりました。当日、栄久庵憲司氏（GK）に続いて不肖私が弔辞をのべさせていただきました。栄久庵氏は友人代表として、私は稲次先生の下で半年間客員研究員として環境デザインを学ばせていただいたご縁と、学会役員としてのお付き合いの長さから選ばれたものと思われまふ。私は昭和39年に学部卒業と同時に社会に出ましたので、40年に大学に戻られた稲次先生とは入れ違いでした。従って50歳過ぎになって聴講させていただいた芸大大学院に於ける先生の講義は、鮮烈で忘れ得ぬものでした。それは「環境デザイン原論」とでも呼ぶべきもので、それまでのデザイン理論とは全く異なるものだったのです。ここでは、先生が私たちに遺してくださったご研究の意義について述べさせていただきますと思います。

先生のライフワークは、「日本独自の環境デザイン論・学の探求」であったと申し上げてよいと思いますが、そのキーワードの第1は「かかわり合い」であると思われまふ。お書きになったものの中からいくつかのフレーズを拾ってみたいと思います。まず『庭園と住居のありやうと見せ方・見え方』から「昭和52年、東京芸術大学デザイン科に『環境造形デザイン講座』が開講され、私がおその講座を担当することになった。ある日、資料作成のとき、私の資料の中に屋内と外部のかかわり合いを示す材料が皆無であることに気付いた。急いで手元の書籍を片っ端からくってみたが、建築の本は建家のみ、庭の本は庭園のみであり、建屋と庭の関係を示す図面・写真は見当たらないのである。私はかつて歩いた民家・寺院を、もう一度訪ね歩くこととなった。」

惜別、稲次敏郎 先生



とあります。こうした、現地に即した地道なご研究の成果が、後に「庭園と建屋の関連に関する一連の研究」として結実し、「日本デザイン学会賞」を受賞されたのでした。この「かかわり合い」こそが先生の環境デザイン論の中心概念であったと申し上げて良いでしょう。欧米における「環境デザイン学」が非常に広い領域の学問の枠組み、ないしその学際性にあるのとは異なり、「かかわり合い」という、それまでの理論とは全く異なる独自性を持ったコンセプトでした。

もう一つの重要なキーワードは「日本」であると思われまふ。近代の主なデザイン理論が全て欧米に由来している中で、これは大きな意味を持つものといえまふ。先生は京都のご出身でありましたが、祇園祭を境にドラマチックに夏の空間に変わる町家の様子を著書の中で鮮やかに描いておられます。そこに人々の生活をめぐる「かかわり合い」の究極の姿をみておられたのでしよう。

一方で、先生は日本的な情緒に頼ったデザインの欠点にも気付いておられました。国際化によって都市が画一化することに対しては批判的であられた先生ですが、それは単なる身内びいきではなく、確固とした歴史観に裏打ちされたお考えでありました。先程の著書の「はじめに」の冒頭にそれは記されています。曰く「近年、都市の国際化が中央から地方に浸透するに連れて、その景観構成におけるデザイン手法も国際的情報に基づいて画一化し、日本の伝統的な景観、地方の風土的な景観

も皮相的な表現にとどまって徐々にその本来の姿は消えつつあり、その姿は『伝統の断絶』かのように見える。」と、先生はまた中国や韓国のすまいと環境についても積極的に現地調査を重ねられ、日本との比較においてそれぞれに特質を明らかにされました。その結果、むしろ日本の環境デザインに本質的に欠落するものを見出しておられます。曰く「私たちは構造不在の修飾的・表層的デザインに陥っていないか。空間と自然が歩み寄った、うちと外を段階的に結ぶ基本的な構造、空間と道具がなじみ合った、モノと場の基本的な編成、そこにデザインを位置づけ、デザイン論を組み立てる本来の私たちのあるべき姿を、反省を含めて、その素朴なたたすまいの内に見いだすのである。」と。ここには、常にフィールドサーベイを概念構築の重要な手段と考へておられた先生の真骨頂が見て取れます。

最後に、先生が『環境デザインの歴史展望-日本』に書きしるされた言葉を持って締めくくりたいと思います。まず「はじめに」では「今日のいわゆる環境デザインを見る限り、風土・民族、地域・住民の特性から発生したものではなく、情報を発生源とする流行的現象が多く見られる。この現象は、環境デザインが国土・地域社会を基盤とする長期的構築物を対象とするものだけに、その安易なる現象に危惧と恐れを抱くものである。」と厳しく、しかし「おわりに」では、バウハウス理論には矛盾があることを指摘され、それを修正する理論的根拠が環境デザインにはあると述べておられます。ただし「今後、本書の修正を重ねるとともに、これの大成は続く後輩諸氏に託したい。」と、先生が切り開かれた理論はまだ未完であることを認め、その継続発展を後進に託しておられるのです。以上のことから、先生が遺して下さった環境デザイン論を、普遍性と独自性ある日本生まれのデザイン理論として大切に育ていくことが、私たち後進に課された責務であろうと考へております。先生のご冥福を心からお祈りいたします。

論理的思考に基づく造形表現

＜数理造形学＞の先見性
～大平智弘教授を偲ぶ～

源田悦夫

大平智弘氏（武蔵野美術大学教授）が平成20年12月8日膵臓がんで急逝された。享年63歳の突然の死である。同年の秋の彼岸には、かつての大平智弘氏の通産省工業技術院製品科学研究所時代の上司で同年7月26日に亡くなった出原栄一氏（会報No188に堀田氏の記事）の墓参りに小川博氏（東海大学教授）とともに墓参した2ヶ月あとのことであり信じられない。出原氏と大平氏は、ともに70年代初頭からデザインにおけるコンピュータの応用研究を開始しており我が国のコンピュータグラフィックやCAD研究の先駆者である。

1970年代のデザインにおけるCG研究は製品科学研究所に集中していた。資生堂の岩城陸奥氏やソニーの高橋靖氏ら企業のデザイナーも大平氏のもとを度々訪ね、ここでCAD研究が先駆的に行われていた。当時学生であった、私や河口洋一郎（東京大学教授）、瀧上季代絵（元東京工芸大学教授、故人）らCG研究に興味を持っていた学生にも、研究生として迎えて頂き、先端的な研究を知ることができた。日本に数台しかなかったEvans & Sutherland社のPicture System 2を自由に使用させていただき、大平氏のもとでコンピュータと芸術についての考えかたや、プログラミングによる造形実験を行わせていただいた。我々研究生はそれぞれ所属する大学は異なっていたが製科研が実質的な学び舎であり、当時の経験がその後の思想形成や教育の方法に大きな影響を受けたことは間違いない。

大平氏は東海大学短期大学部や武蔵野美術大学デザイン情報学科などのCGを基盤とした組織的な教育の立案と実践を行うとともに、デザイン学会C&D (Computer And Design) 部会や、NICOGRAPH, CG-ART協会などの創成期に、我が国のCG教育や産業育成のために、私利私欲なく尽力された。

惜別、大平智弘 先生



九州大学大橋キャンパスにて（2006年11月）



2008年秋の彼岸に出原栄一先生墓参
（左から小川（東海大学）、大平、出原夫人、出原立子（金沢工業大））

大平氏の代表的な研究業績として、フォリアリスティックレンダリング分野でのAnisotropic Reflection Model（異方性反射モデル）とIridescent Reflection Model（玉虫色反射モデル）の研究があげられる。これにはGouraud, Phong, Blinn, Cook & Torranceなどの著名な研究者の光学モデルが当時開発されていたがこれらのモデルは方向性を持たない表面を対象にした反射モデルであるため、梨地仕上げやヘヤーライン仕上げのような方向性を持った反射は表現できなかったが、異方性反射モデルはこれを可能にしたモデルである。等方性反射モデルでは反射光の強度分布が正反射軸に関して回転楕円体になっているのに対して、異方性反射モデルでは回転楕円体がある軸に対して潰れた形(ellipsoid)を導入することによって、実現している。Iridescent Reflection Mode 1(玉虫色反射モデル)では反射光の方向、強度分布をRGB別々のモデルで計算し

ている。これによって、微妙な質感が表現できるようになった。これらの研究は1970年代後半から行われており、Blinnよりも早くCGにおけるリアリスティックな表現を追求していた。もし当時SIGGRAPH等の国際学会に発表していれば世界的なCG研究のパイオニアとして顕彰されていたことは間違いない。

コンピュータグラフィックをCGI (Computer Generated Image) と呼ぶことがある。これは、本来コンピュータ自身がプログラムやデータを介してイメージを創成するという意味である。このイメージ創成について、大平氏は、ものの形状を表層で理解するのではなく、その構造や生成規則を手続き(アルゴリズム)化し、プログラム言語で記述するプロセスに、我々の思考を越えた新たな造形の可能性を秘めていると述べている。(デジタルイメージデザイン/CG-ART協会1995) こうした数理造形の考え方がデザインや芸術教育には不可欠であることを常に主張していた。

CG教育界では、数年前に瀧上季代絵氏を亡くし、昨年出原栄一氏、大平智弘氏を相次いで亡くした。彼らは論理的思考と芸術的感性の融合によって実現する新たな造形方法論法を提唱した人々である。現在我が国の国家戦略であるメディア芸術やコンテンツ創成の基盤となるクリエイターの育成には、こうした大平氏らが主張した論理的思考に基づく造形教育が今こそ重要だと思う。

大平先生は、ピースを吹かせ、酒を飲み、芸術や教育について熱く語りながら、仲間や弟子達とコミュニケーションを持つことを大切にしていた。今後こうした影響を受けた我々が、大平先生の意思を引き継いで行かなくてはならない。

ご冥福を祈ります。

平成 20 年度第 7 回理事会議事録

日 時：平成 21 年 1 月 31 日（土）
15：00～17：30
場 所：筑波大学東京キャンパス
（茗荷谷）G207 教室
出 席 者：青木（弘）、蓮見、尾登、
工藤、國本、長谷、野口、
古屋、山中、渡辺、國澤、
小野
委任状出席：河原林、寺内
欠 席 者：梨原

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

2. 平成 20 年度第 6 回理事会議事録の承認

（小野本部事務局幹事）

小野本部事務局幹事より平成 20 年度第 6 回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成 21 年度春季大会について

（國本大会実行委員長）

國本大会実行委員長より、ポスター案および大会準備の進捗状況について報告がなされた。古屋理事より、金曜日に基調講演を行った場合、どうしても参加者が少なくなる傾向にあるため、基調講演を土曜日に移す、もしくはオーガナイズドセッションを金曜日に移すなどの工夫が必要ではとの意見がなされ、大会実行委員会と研究推進委員会で、検討することとした。

4. オーガナイズドセッションについて

（國本大会実行委員長、古屋研究推進委員長）

國本大会実行委員長より、バイオメディカルデザイン研究部会によるオーガナイズドセッション「(仮) 生命からバイオメディカルへ」について、資料をもとに説明がなされた。また古屋研究推進委員長より、デザイン理論・方法論研究部会によるオー

ガナイズドセッション「タイム・アクシス・デザイン」の時代」について、資料をもとに説明がなされた。現在オーガナイズドセッションのテーマを募集中なので、ぜひ応募して頂きたいとの要望がなされた。また次の理事会において、テーマを決定する予定であるとの報告がなされた。

5. 春季研究発表大会発表申込案内別送について

（工藤概要集編集委員長）

工藤概要集編集委員長より、刊行物の発送スケジュールと上手くリンクしないため、「第 56 回春季研究発表大会の発表申込に関するお知らせ」を別送したいとの申し出がなされ、審議ののち、承認された。

6. 学生会員制新設について

（野口財務委員長）

野口財務委員長より、学生会員制に関する試案について説明がなされた。それに対して、古屋理事より、これ以外のシナリオも考えられると思うとの意見がなされた。また山中理事より、学生の金銭的負担を減らすのが目的であるなら、入会金を免除するという方法あるとの意見がなされた。審議の後、入会金を免除するだけなら、会則の変更も必要ないため、早急に試行の準備を進めることとした。また学生会員制については、引き続き検討していくこととした。

7. 平成 21 年度秋季企画大会について

（古屋理事）

古屋理事より、21 年度の秋季企画大会の候補地として、拓殖大学で開催することで検討中であるとの報告がなされた。22 年度の春季研究発表大会については、札幌市立大学との案がだされ、検討することとした。

8. 会員の移動について

（小野本部事務局幹事）

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会〔正会員 7 名（内

外国人 3 名）、退会〔正会員 10 名、賛助会員 2 件、年間購読 1 件〕が承認された。

【報告事項】

9. 科学技術振興機構（JST）と国立情報学研究所（NII）について

（山中理事）

山中理事より、科学技術振興機構と国立情報学研究所について、現在の活動について報告がなされた。現在、日本デザイン学会は、国立情報学研究所に電子ジャーナル化を委任しているが、科学技術振興機構も電子ジャーナルサービスを始めようとしており、どちらのサービスを利用するかは、今後の動向を見ながら判断する必要があるとの説明がなされた。

10. IASDR2009 について

（青木会長）

青木会長より、先日、Lee Kunpyo 大会実行委員長が大学を訪問され、日本デザイン学会から、多くの発表を期待しているとのメッセージを頂いたとの報告がなされ、理事の方には多くの会員の方に、大会について周知して欲しいとの要望がなされた。

記録：小野

平成 20 年度第 8 回理事会議事録

日 時：平成 21 年 3 月 14 日（土）
14：00～16：40
場 所：秋葉原ダイビル 5F
C-1 会議室
出 席 者：青木（弘）、蓮見、青木（幹）、
五十嵐、伊豆、勝浦、君島、
國本、久保、小林、長谷、
古屋、野口、松岡、國澤、
寺内、小野
委任状出席：尾登、青木（史）、阿部、
荒井、岡田、岡本、河原林、
工藤、黒川、田村、梨原、
生田目、坪郷、降旗、宮崎、
村上、山中

欠席者：原田，杉山，渡辺

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶があった。

2. 平成20年度第7回理事会議事録の承認
(小野事務局幹事)

平成20年度第7回理事会の議事録案が示され、一部修正のうえ承認された。

【審議事項】

3. 平成21年度春季大会について

(國本実行委員長)

國本実行委員長より、平成21年度春季大会のスケジュール案、予算案、宿泊施設などが資料に基づいて詳細に説明された。この際、前回理事会の意見を反映して、基調講演を6月27日(土)に変更した旨の報告があった。審議の結果、スケジュールを一部修正した後、計画案が承認された。

4. オーガナイズドセッションについて

(古屋研究推進委員会委員長)

古屋研究推進委員会委員長より、第56回春季研究発表大会のオーガナイズドセッションの案が示され、それぞれについて資料に基づいた詳細な説明がなされた。審議の結果、審議の結果、五つのオーガナイズドセッションを設けることが承認された。

5. 第56回春季研究発表大会のテーマセッションについて

(古屋研究推進委員会委員長)

古屋研究推進委員会委員長より、第56回春季研究発表大会のテーマセッションについて、資料に基づいて詳細な説明がなされた。審議の結果、五つのテーマセッションを設けることが承認された。

6. 平成21年度秋季大会について

(古屋理事)

古屋理事より、平成21年度秋季大会を拓殖大学で開催する旨の提案がな

された。審議の結果、平成21年度秋季大会を拓殖大学の文京キャンパスで開催することが承認された。また大会日程は、次回理事会で検討することとなった。

7. 学生会員制度について

(野口財務委員会委員長)

野口財務委員会委員長より、学生会員制度に関する案とそれに基づいた試算結果が示され、詳細な説明がなされた。審議の結果、大学院生(修士、博士)を学生会員とし、入会金無料/会費は2年間限定で正会員の半額にすることが承認された(平成22年度より実施)。また、学部学生は学生会員とせず、学会の裾野拡大という観点から別の枠組みを企画委員会を中心として検討することとした。

8. 会員の移動について

(小野本部事務局幹事)

本部事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会:正会員36名(うち外国人11名)], [退会:正会員19名, 賛助会員1件, 年間購読会員2件]が承認された。

【報告事項】

9. 秋季大会会計報告

(尾登秋季大会実行委員長)

(代理) 古屋実行委員

尾登秋季大会実行委員長の代理として、古屋実行委員より、平成20年度秋季大会の決算報告がなされた。

10. デザインシンポジウム2008会計報告

(松岡担当理事)

松岡担当理事より、デザインシンポジウム2008の決算報告がなされた。この際、次回のデザインシンポジウム2010では、精密工学会が幹事学会となる旨の報告があった。

11. IASDR2009について

(杉山IASDR担当委員会委員長)

(代理) 青木会長

杉山IASDR担当委員会委員長の代理

として、青木会長より、IASDR2009の投稿件数が1021件(世界40カ国)にのぼったこと、加えて2011年の開催地は、カーネギー・メロン大学(アメリカ)、デルフト工科大学(オランダ)が候補にあがっている旨の報告がなされた。また、2013年は日本開催となるので体制構築に向けての協力依頼がなされた。

12. 九州デザイン六大学展について

(青木(幹)第五支部支部長)

青木(幹)第五支部副支部長より、3月24日から4月28日まで期間、九州産業大学美術館で開催される九州デザイン六大学展について、資料に基づいて報告がなされた。

13. JABEEの臨時総会について

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より、JABEE(日本技術者教育認定機構)の臨時総会に出席した旨の報告があった。臨時総会で、JABEEが一般社団法人化するとの報告があった旨が報告された。なお当学会の法人化は、社会情勢に配慮しながら検討をしていく旨の報告があった。

記録：寺内

平成21年度第1回理事会議事録

日時：平成21年4月18日(土)
15:00～17:30

場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス会議室

出席者：青木(弘)、蓮見、尾登、阿部、五十嵐、伊豆、岡田、岡本、河原林、君島、工藤、國本、久保、小林、杉山、梨原、生田目、野口、古屋、松岡、山中、國澤、寺内、小野

委任状出席：青木(幹)、青木(史)、荒井、勝浦、黒川、田村、坪郷、長谷、原田、宮崎

欠席者：降旗，村上，渡辺

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶があった。

2. 平成20年度第8回理事会議事録の承認

(寺内本部副事務局長)

平成20年度第8回理事会の議事録案が示され，原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成21年度学会組織について

(青木会長)

青木会長より，平成21年度の委員会等一覧(案)が示された。審議の結果，委員会等一覧(案)は一部修正したうえで承認された。その際，幹事を変更する場合は，5月15日(金)までに本部事務局へ報告するよう要請がなされた。また平成20年度の活動報告/平成21年度の活動方針も5月15日(金)までに本部事務局へ提出するよう要請された。

4. 平成21年度春季研究発表大会について

(國本春季大会実行委員長)

國本春季大会実行委員長より，春季研究発表大会の会場とスケジュールの案が示され，資料に基づいて説明がなされた。審議の結果，春季研究発表大会案が原案通り承認された。

5. 平成21年度第56回総会式次第について

(小野本部事務局幹事)

小野本部事務局幹事より，平成21年度日本デザイン学会総会式次第案が示され，審議の結果，一部修正したうえで総会式次第が承認された。また総会の時間を1時間30分程度とするよう要請がなされた。

6. 第56回春季研究発表大会グッドプレゼンテーション賞について

(工藤概要集編集委員会委員長)

工藤概要集編集委員会委員長より，第56回春季研究発表大会における

グッドプレゼンテーション賞の実施と選考要領についての案が示された。審議の結果，グッドプレゼンテーションの実施と選考要領が原案通り承認された。

7. 名誉会員推挙について

(青木会長)

資料に基づいて名誉会員の推挙が求められた。審議の結果，岩井一幸氏，渥美浩章氏を名誉会員に推挙することが承認された。また推挙の候補となっている石丸進氏については，現況を調査することとした。

8. 平成21年度秋季企画大会および平成22年度春季研究発表大会について

(青木会長)

青木会長より，平成21年度秋季企画大会の日程と平成22年度春季研究発表大会の開催地について確認がなされた。審議の結果，21年度の秋季企画大会を11月14日あるいは15日のいずれかに行うことが承認された。一方，22年度の春季研究発表大会の開催地について，山中理事より札幌市立大学と交渉中である旨の報告があった。

9. 学生会員制新設に伴う会員規則等の改正について

(野口財務委員会委員長)

野口財務委員会委員長より，学生会員制新設に伴う会則の改正案が示された。審議の結果，会則は改正せずに，学生を対象とした入会金無料キャンペーンを継続したうえで，さらに来年4月から年会費を半額にする方向で検討することとなった。また青木会長より，企画委員会に学生会員制度の検討を継続するよう要請がなされた。

10. 平成21年度学会運営スケジュールについて

(小野本部事務局幹事)

小野本部事務局幹事より，学会運営スケジュール案が示され，審議の結果，

原案通り承認された。

11. 入会金・会費未納会員について

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より，入会金および会費が未納となっている新入会員への対応について確認がなされ，審議の結果，該当する会員の記録を入会申し込みの1年後にデータベースから抹消することが承認された。

12. 学会ホームページへのバナー広告について

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より，学会ホームページへのバナー広告の掲載依頼がある旨の報告がなされ，審議の結果，広報委員会にバナー広告掲載の検討要請がなされた。

13. 会員の移動について

(小野本部事務局幹事)

本部事務局に提出された書類を回覧・審議した結果，[入会：正会員61名(うち外国人14名)]，[退会：正会員30名，賛助会員4件，年間購読会員1件]が承認された。

【報告事項】

14. 第56回春季研究発表大会発表申込状況について

(工藤概要集編集委員会委員長)

工藤概要集編集委員会委員長より，春季研究発表大会の申し込みが200件を超える見込みである旨の報告があった。

15. 稲次敏郎先生を偲ぶ会について

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より，稲次敏郎先生を偲ぶ会が5月10日に上野の寛永寺で行われる旨の報告があった。

16. IASDR2009について

(杉山IASDR担当委員会委員長)

杉山IASDR担当委員会委員長より，IASDR2009のイラストラクト審査で発表件数が約700件まで絞り込まれ

た旨の報告があった。

17. デザインシンポジウム 2010 の運営委員会ワーキンググループについて
(青木会長)
青木会長より、デザインシンポジウム 2010 の運営委員会ワーキンググループに小野本部事務局幹事を推薦する旨の報告があった。

18. 特集号の発刊について
(河原林学会誌編集・出版委員会委員長)
河原林学会誌編集・出版委員会委員長より、特集号の発刊時期が前後することとなる旨の報告があった。

19. 学会法人化について
(國澤本部事務局長)
國澤本部事務局長より、日本工学会の会員学協会における法人化の動向について報告があった。

20. 名古屋市立大学環境デザイン研究所発足について
(國本理事)
國本理事より、4月に名古屋市立大学環境デザイン研究所が発足し、國本理事が所長に就任した旨の報告があった。

記録：寺内

平成 21 年度第 2 回理事会議事録

日 時：平成 21 年 5 月 23 日 (土)
15:00 ~ 18:08
場 所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス会議室
出席者：青木(弘)、蓮見、尾登、河原林、國本、野口、古屋、山中、國澤、寺内、小野
委任状出席：梨原
欠席者：長谷、渡辺

1. 会長挨拶
青木会長より挨拶があった。
2. 平成 21 年度第 1 回理事会議事録の承認
(寺内本部副事務局長)
平成 21 年度第 1 回理事会の議事録案が示され、一部加筆修正のうえ承認された。

- 【審議事項】
3. 平成 20 年度決算・監査報告
(國澤本部事務局長)
國澤本部事務局長より、平成 20 年度の決算報告が示され、資料に基づいて詳細な説明がなされた。審議の結果、決算・監査報告が承認された。この際、監査において会計事務所に相談することを検討するよう示唆された旨の報告があった。そのため収支報告を専門家に見てもらおう方向で検討することとなり、その対応を本部事務局に依頼した。

4. 平成 21 年度予算案
(國澤本部事務局長)
國澤本部事務局長より、平成 21 年度の予算案が示され、資料に基づいて詳細な説明がなされた。監査において、広報のための予算を設けた方がよいとの指摘がなされたため、予算案では新たに広報費の予算枠を設けた旨の説明があった。審議の結果、春季研究発表大会のオーガナイズドセッションの予算はセッション数を考慮して決定することとなり、この点を修正し、予算案が承認された。

5. 平成 21 年度活動計画について
(各委員長)
各委員会委員長より、資料に基づいて、平成 21 年度の活動報告が説明された。

6. 平成 21 年度秋季企画大会について
(古屋理事)
古屋理事より今年度の秋季企画大会を 11 月 15 日に開催する旨の報告が

あった。テーマは「工学とデザイン(仮)」とし、平成 21 年度の機械工業デザイン賞受賞機器の展示や学生プロポジションを行うことを企画している旨の報告がなされた。

7. 平成 22 年度春季研究発表大会について
(山中理事)
山中理事より、平成 22 年度春季研究発表大会を千葉工業大学で開催する方向で調整している旨の報告があった。

8. 大学院生会費減免キャンペーンについて
(野口財務委員会委員長)
野口財務委員会委員長より、大学院生の年会費を来年 4 月から半額免除とする提案がなされ、特に学生会員の権利について議論がなされた。

9. デザインシンポジウム 2010 の運営委員について
(松岡担当理事
(代) 國澤本部事務局長)
松岡担当理事の代理として國澤本部事務局長より、デザインシンポジウム 2010 から運営委員を推薦するよう求められている旨の報告があった。審議の結果、松岡由幸氏、小林昭世氏、永井由佳里氏を推薦することとなった。

10. 会員の移動について
(小野本部事務局幹事)
本部事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会:正会員 18 名(うち外国人 5 名)], [退会:正会員 5 名, 年間購読会員 1 件] が承認された。

- 【報告事項】
11. 平成 21 年度春季研究発表大会について
(國本春季大会実行委員長)
國本春季大会実行委員長より、資料に基づいて春季研究発表大会の進捗状況が報告された。

12. 学会各賞委員会の発足について

(松岡担当理事(代) 國澤本部事務局長)
松岡担当理事の代理として國澤本部事務局長より、学会各賞委員会が発足した旨の報告があった。また作品集が発送された後に、推薦を依頼する旨が報告された。

13. 総会資料確認のお願い

(國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より、[総会資料・活動報告・活動方針]を確認して、修正や訂正が必要な場合は、5月29日の17時までに本部事務局に連絡する旨の要請があった。

14. 稲次敏郎先生お別れの会について

(尾登副会長・國澤本部事務局長)

尾登副会長より、稲次敏郎先生お別れの会に学会より生花をお送りした旨の報告があった。また國澤本部事務局長より、お香典をお持ちした旨の報告がなされた。さらに追悼記事を長谷先生にお願いすることとした。

記録：寺内

平成21年度 春季研究発表大会報告

大会実行委員長 國本 桂史

平成21年度の第56回春季研究発表大会は、平成21年6月26日(金)から28日(日)まで、「想像」する「創造」～人間とデザインの新しい関係～をテーマとし、愛知県名古屋市の公立大学法人 名古屋市立大学大学院 芸術工学部・北千種キャンパスで開催されました。本研究発表大会は、國本大会実行委員長による開会の辞と共にスタートし、会員を中心に400名を超える参加があり、一般公開を行った基調講演・オーガナイズドセッション等へは、多くの学生や地域市民の方々が参加され、大変盛会に開催することが出来ました。

近年では、産業界が迎えている大きな変革や技術的な進歩とともに、デザインが対象とする分野も「医療・ロボット・航空宇宙分野」へと拡大しています。そこで、改めて「人間」と「デザイン」の関係性について考え、未来を「想像」し「創造」するために、本大会のテーマを“「想像」する「創造」～人間とデザインの新しい関係～”としました。日本を代表する産業の多くが集まる名古屋という地域の特性を活かし、参加者の方々の想像力を刺激するような大会の開催を目指しました。

基調講演では、大会会長でもある名古屋市立大学 西野 仁雄 学長・理事長を講師にお招きし、「脳をデザインする」というテーマでお話ししていただきました。「脳」と「こころ」の相互作用について、脳の科学的なしくみやはたらきを基に語られ、「私たちは自分の可能性を信じて大いに努力すれば、脳はそれに応じてくれるのです」と締めくくられました。

オーガナイズドセッションでは、3日間にわたり、「ロボットと暮らす明日」(瀬名 秀明氏ほか)、「生命からバイオメディカルへ」(石原 謙氏、横井 基夫氏ほか)、「DOCOMOMOを考えるー保存と環境デザイナーー」、「タイム・アクシスデザインの時代」、「新たな社会づくり

のためのデザイン」という5つのテーマでセッションを設けました。パネリストにはデザイン関係者だけでなく、工学関係、医学関係、作家などそれぞれの専門家を迎え、積極的な発言に参加者からの鋭い質疑も続き、密度の高い議論がなされ、大変有意義な時間となりました。これからのデザインに不可欠な大変興味深いテーマを掲げたこともあり、専門領域を超えた多くの方々の参加があり、共通の課題への関心の高さも伺うことができました。

200件あまりの研究発表(口頭発表161件、ポスターセッション41件)では、デザイン理論・方法論、情報デザイン、サービスデザイン、医療・看護デザイン、創造性研究、ユニバーサルデザイン、地域振興、地域研究、家具・木工、デザイン史、ファッション、建築、インテリア、景観デザイン、デザイン教育、タイポグラフィ、グラフィック、形態、構成、CG、デザイン計画、インターフェイス、デザインマネジメント、デザイン評価、感性工学、デザインシステム、デザイン方法論、デザイン論等の各分野にわたって、会員の研究成果が発表され、熱心な質疑応答が続きました。テーマセッションとして4つのテーマが設けられ、より専門性の高い討議が行われました。

企業展示には、名古屋地域を中心に7社の企業・団体が出展し、デザイン関連書籍・資料の販売や新しく開発された製品のデモを行いました。大会期間中、プロクレイモデラーによるクレイモデル制作の実演も行われ、多くの参加者の注目を集めていました。

大会初日の夕方には、エクスカーションが行われ、エクスカーションAでは「トヨタテクノミュージアム産業技術記念館」の見学を行い、エクスカーションBでは徳川美術館に隣接する「ガーデンレストラン徳川園」で池泉回遊式の日本庭園を望みながら、フレンチのフルコースによる食事会を行いました。そして最終日、Autodesk社によるAliasのチュートリアルセミナーで全プログラムが終わりました。

今回は大会運営スタッフによるオペレーションやサイン計画の徹底により、大変スムーズに大会運営を行うことができ、多くの参加者からも高い評価を頂くことができました。

第56回春季研究発表大会のグッドプレゼンテーション賞には、以下の研究発表が選ばれました（所属省略）。

- 文楽人形の動作表現技術の解明（櫻哲郎，森田 寿郎，植田 一博）
- ヴィジュアル言語 Viscuit を利用した連続ワークショップ（笠井 優，原田 康徳，大島 久雄，高宮 由美子）
- 表現活動プログラムをデザインするための枠組み（小早川 真衣子，永井 由美子，敦賀 雄大，高見 知里，原田 泰，須永 剛司）
- セキュリティを基軸とした社会サービスデザイン（石垣 陽，茅野 貢）
- 光造形法による口蓋床制作へのラ

ビッドプロダクトの応用に向けて（嶋野 宇一郎，國本 桂史）

- 振り返りとリアルタイムによる情報交流プログラムの効果（熊澤 貴之，齋藤 美絵子）
- A Study for Developing Universal-Design Road Signal (Taro Ochiai)
- 河川流域に設置されている標識類の改善に関する取り組み（曾我部 春香，森田 昌嗣，佐伯 謙吾，石橋 伸介，石川 映子）
- ブラウン管テレビに見るデザインの変遷（伊豆 裕一）
- 建築家アンジョロ・マツォーニの駅舎と家具デザイン（白井 敬太郎）
- 思い出横丁のアートイベントからコミュニケーションデザインへ（笠尾 敦司）
- William Gamble の活字研究（後藤 吉郎，森 啓，横溝 健志）

- 反復効果に着目した道路内部景観に関する研究 (3)（永見 豊，永田 裕典）
- 押し出し回転構造の研究（堀内 芳明）
- アイデアスケッチにおけるデザイン発想支援法の研究（渡辺 一樹，佐藤 弘喜）

本大会では、デザインに関する専門家・研究者に加え他分野の方々の参加もあり、また、発表も多岐にわたりそれぞれの意見を活発に交換することができました。“「想像」する「創造」～人間とデザインの新しい関係～”の大会テーマに相応しく、多くの参加者がこれからのデザインについて考える良い機会になったと思います。次回大会ではさらに発展したデザインの研究発表がなされることを大いに期待いたします。



國本大会実行委員長による開会式挨拶



西野学長・理事長による基調講演



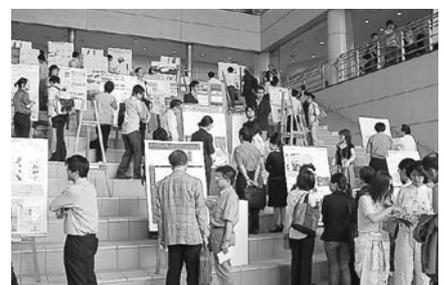
口頭発表



大会参加受付



基調講演会場



ポスターセッション

平成 21 年度総会報告

本部事務局

平成 21 年 6 月 26 日（金）、名古屋市立大学芸術工学部北千種キャンパスにおいて、第 56 回総会が開催されました。司会進行は國澤好衛本部事務局長が行いました。司会から、出席者数は、会場出席者約 41 名、委任状出席者が 238 名（定数 182 名）、総会が成立することが報告されました。

青木会長から、基本方針を「会員に取ってよりメリットのある学会」とし、具体的に 11 の基本施策をあげ、会員に取ってよりメリットのある学会基盤を構築すべく、本年度は、前年度の積み残し案件実現に向けて、より積極的に活動を展開してゆきたいとの説明がなされました。

議事は大坪牧人会員（名古屋市立大学）と國本篤矢会員（名古屋市立大学）の二人の議長団の司会で進行されました。

蓮見孝副会長から平成 20 年度の活動報告があり、つづいて國澤本部事務局長より平成 20 年度の決済報告がなされ、それに対して原田昭監査、杉山和雄監査から監査報告がなされました。その後、会場からの質疑応答を経て議決の結果、承認されました。

尾登誠一副会長の平成 21 年度事業計画の説明に続き、國澤本部事務局長から平成 21 年度の予算案の説明があり、質疑応答を経て議決されました。

今回、名誉会員となられた会員の方は、大平智弘会員（69 号）、渥美浩章会員（70 号）、石丸進会員（71 号）、岩井一幸会員（72 号）の 4 名です。総会の詳細については、会報末に総会資料を掲載いたしましたので、ご参照下さい。



青木弘行会長による平成 21 年度活動方針説明



渥美浩章名誉会員からのご挨拶



大坪牧人議長と國本篤矢議長



石丸進名誉会員からのご挨拶



蓮見孝副会長による平成 20 年度活動報告



原田昭監査、杉山和雄監査による監査報告



尾登誠一副会長による平成 21 年度活動計画

第2支部活動報告（第1報）

第2支部長 君島昌之

平成21年7月11日（土）、日本デザイン専門学校を会場として、日本デザイン学会第二支部の2009年度第1回活動：「第二支部・教育部会合同セミナー：これからのデザイン教育を考える」が開催されました。本活動は、教育部会との合同企画として開かれ、デザインに関わる研究・教育者（九州大学、群馬大学、慶應義塾大学、玉川大学、多摩美術大学、筑波技術大学、東京成徳大学、東京都立工芸高校、常葉学園大学、日本大学、日本デザイン専門学校、名城大学、山形大学、横浜国立大学、横浜デジタルアーツ専門学校）、企業関係者（株式会社イリア、株式会社東芝、株式会社朋栄、日産自動車株式会社、ネットイヤーグループ株式会社）、財団関係者（財団法人工芸財団）、学生（静岡文化芸術大学、千葉大学、東京学芸大学、東京純心女子大学）をはじめとする40名近くの方々にご参加いただきました。

君島による開会挨拶の後、橋本正彦氏（日産自動車株式会社）、伊豆裕一氏（株式会社東芝）、中島千絵氏（玉川大学）の3名の方々から、小学生の子供達を対象としたカーデザイナーの仕事紹介や簡単な実習によるCSR活動の事例、デザインスケッチによるアイデア展開をテーマとした理工系学生へのデザイン教育の事例、基礎造形に基づく大学でのデザイン教育の事例など、デザイン教育に関するさまざまな話題提供をいただきました。そして、ディスカッションにおいては、デザインにおいて用いられる技能の教育とともにデザインの果たすべき役割や哲学などを学ぶことができる新たな教育のあり方、デザインされたものを使う側の人々に向けたデザイン教育の可能性等をテーマとした活発な議論が行われました。

お忙しいなか本セミナーにご参加をいただきました皆様、会場設営にご尽力をいただきました金子武志先生をは

じめとする日本デザイン専門学校の皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。

なお、第2支部の第2回活動を今秋に予定しております。次回も多数の皆様のご参加を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



橋本正彦氏による講演の様子



伊豆裕一氏による講演の様子



中島千絵氏による講演の様子



会場の様子

献本御礼

◆寄贈図書

- クリップENDORF 意味論的転回～デザインの新しい基礎理論～、小林昭世 / 川間哲夫 / 國澤好衛 / 小口裕史 / 蓮池公威 / 西澤弘行 / 氏家良樹、(株) エスアイビー・アクセス
- 色彩デザイン学、三井直樹 / 三井秀樹、六耀社
- PRODUCT DESIGN [プロダクトデザイン]、日本インダストリアルデザイナー協会編、ワークスコーポレーション
- 意匠制度 120 年の歩み、特許庁意匠課

◆機関誌・会報

- たまび NEWS Spring2009 No. 53、多摩美術大学広報第 53 号
- Progress in Informations No.6, NII (National Institute Informatics), 2009
- J-STAGE NEWS No. 20、科学技術振興機構、2009

◆予稿集・論文集・報告書

- 東北工業大学紀要 理工学編 第 29 号東北工業大学、2009
- 名古屋造形大学 / 名古屋造形芸術大学短期大学部紀要 第 15 号、名古屋造形大学 / 名古屋造形芸術大学短期大学部、2009
- 多摩美術大学研究紀要 第 23 号、多摩美術大学研究紀要委員会編、2008
- 愛知産業造形学研究所所報、愛知産業造形学部、2009
- IWASEDAN 2008 第 1 回 NAGOYA 環境デザイン国際ワークショップ・国際会議報告書、意匠学会、IWASEDAN2008、2008
- International Design Scoreboard: Initial indicators of international design capabilities, UNIVERSITY OF CAMBRIDGE IFM

募集案内

第9回(2009年)

グリーン・サステナブル ケミストリー賞

経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞

業績募集

グリーン・サステナブル ケミストリー(略称:GSC)ネットワークでは、GSCの推進に貢献のあった個人、法人、任意団体にGSC賞を贈っています。今回は第9回GSCを募集します。

◆対象となる業績カテゴリー

- ・カテゴリー (A)
- ・カテゴリー (B)
- ・カテゴリー (C)

◆応募方法

応募資料は、論文等も含め電子情報をE-mailで送付してください。電子情報化できない場合は、ハードコピーも可とします。

◆応募締切

2009年11月2日(月)17時

※ハードコピー送付の場合は、

2009年10月31日(金)当日消印有効

◆応募書類の提出先

gscn@jcii.or.jp

※ハードコピー送付の場合は、

(財)化学技術戦略推進機構内

GSCネットワーク事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神

保町1-3-5 富山房ビル2F

◆問い合わせ先

TEL 03-5282-7273 FAX 03-5282-0250

E-mail:ssrg-jss@silver.ocn.ne.jp

URL:http://www.gscn.net/

第31回(平成21年度)

沖縄研究奨励賞推薦応募

沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成するため、財団法人沖縄協会沖縄研究奨励賞を設けています。適格と認められる候補者を推薦ください。

◆応募方法

(1)所定の「沖縄研究奨励賞応募用紙」に所要事項を記入し、(2)研究成果(論文3編以内。著書がある場合は1冊)と、(3)提出する研究成果物(論文または

著書)の簡潔な要旨、(4)主な研究業績の目録、を添えて郵送により提出する。

◆応募期間

平成21年7月15日～平成21年9月30日

※当日消印有効

◆応募資格

(1)沖縄を対象とした優れた研究を行っている、(2)50歳以下(7月15日現在)の研究者で、(3)学協会、大学、研究機関または実績のある研究者からの推薦を受けた者。出身地及び国籍は問わない。

◆応募書類の提出及び問い合わせ先

(財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」

担当:山岸貴生

〒112-0004 東京都文京区後楽1-2-9

エー・ゼットキュウビル5F

TEL 03-5803-2341 FAX 03-5803-2581

E-mail:okinawakyoukai@nifty.com

URL:http://homepage3.nifty.com/

okinawakyoukai

第2回

京都・花灯路 創作行灯

デザインコンペ

「京都・花灯路」の主旨に合ったもので「和の灯り」を基本コンセプトに制作してください。

◆応募方法

「パネル出展」「模型出展」「実物出展」のいずれかを選んで申し込む。

◆応募締切

2009年11月5日(木)当日消印有効

◆応募及び問い合わせ先

「京都・花灯路 創作行灯

デザインコンペ」事務局

〒604-8187 京都市中京区烏丸御池東入

第一生命ビル7F(株)日商社内

担当:中西/川口/小川

TEL 075-211-3571 FAX 075-241-4544

URL:http://www.hanatouro.jp/andon/

第23回

公共の色彩賞

「公共の色彩を考える会」は活動の一環として多くの人の目に触れる環境色彩の優れた事例を全国から募集し、「公

共の色彩賞-環境色彩10選-」として顕彰しています。

◆応募方法

推薦対象の「写真」と「応募シート」を規定の要領で作成し、郵便等で当会事務局へ送付する。

◆応募期間

2009年6月16日(火)～

2009年9月16日(水)当日消印有効

◆応募及び問い合わせ先

「公共の色彩を考える会」事務局

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町

2-4 第3フクヤマビル4F 46号室

TEL&FAX 03-5283-2166

E-mail:sgcpp@titan.ocn.ne.jp

URL:http://www.sgcpp.jp

やまなしデザインコンペティション

2009

◆応募テーマ

「フルーツを彩るプロダクト」

◆応募資格

全国の高校生以上ならばどなたでも応募可

◆応募方法

規定の応募用紙を山梨県デザインセンターのホームページからダウンロードしてください。

◆応募期間

2009年7月21日(火)～2009年9月4日(金)

◆応募及び問い合わせ先

山梨県デザインセンター

〒400-0055 山梨県甲府市大津町2094

TEL 055-243-6101 FAX 055-243-6102

E-mail:dc@yitc.go.jp

URL:http://www.yitc.go.jp/design/

d-index.html

平成21年度

「幼児向け絵本」募集

アイヌの伝統や文化に関する幼児向け絵本の原作(絵と文)を広く募集します。◆応募方法

(1)応募原稿に「応募申込書」を添付し、本文原稿には「作品名・応募者名・ページ数」を、原画裏面には「作品名・ページ数」を明記する。(2)絵と文を別紙により提出する場合は、文原稿の

用紙等は自由とし、原画のページ数に対応させたページ数を文原稿に指定する。

◆応募締切

2009年8月31日(月)必着

◆応募及び問い合わせ先

(財) アイヌ文化振興・研究推進機構
事業課内 「幼児向け絵本」係

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目
プレスト1・7(7F)4F

TEL 011-271-4171 FAX 011-271-4181

E-mail:ainu@frpac.or.jp

URL:<http://www.frpac.or.jp>

催し物

隈 研吾 展

Kengo Kuma Studies in Organic

◆会期

2009年10月15日(木)～12月19日(土)

◆休館日

日曜・月曜・祝日(11/1, 2, 3は開館)

◆開館時間

11:00～18:00(金曜日のみ19:00まで)

◆入場料:無料

◆会場・問合せ先

ギャラリー・間

〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3

TOTO 乃木坂ビル 3F

TEL 03-3402-1010

URL:<http://www.toto.co.jp/gallerma/>

カンポ・バエザの建築

◆会期

2009年6月25日(木)～8月29日(土)

◆休館日

日曜・月曜・祝日

◆開館時間

11:00～18:00(金曜日のみ19:00まで)

◆入場料:無料

◆会場・問合せ先

ギャラリー・間

〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3

TOTO 乃木坂ビル 3F

TEL 03-3402-1010

URL:<http://www.toto.co.jp/gallerma/>

卒業設計日本一展 2009

◆会期

2009年9月12日(土)～26日(土)

◆休館日

日曜・月曜・祝日

◆開館時間

11:00～18:00(金曜日のみ19:00まで)

◆入場料:無料

◆会場・問合せ先

ギャラリー・間

〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3

TOTO 乃木坂ビル 3F

TEL 03-3402-1010

URL:<http://www.toto.co.jp/gallerma/>

ゴーギャン 展

◆会期

2009年7月3日(金)～9月23日(水・祝)

◆休館日

月曜日(8/24, 9/21は開館)

◆開館時間

11:00～17:00(金・土は20:00まで)

◆入場料

一般:1,500円, 大学生:1,000円,

高校生:600円

◆会場・問合せ先

東京国立近代美術館

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園

3-1

URL:<http://gauguin2009.jp/>

会員の移動

◆平成20年度第8回理事会承認

2009.03.14

<新入会>

*正会員 37名 (内, 外国人 11名)

有光 隆也 石垣 陽
 伊藤 丙雄 今井 走
 尾形 拓哉 笠井 優
 加藤 健郎 川島 晃
 河瀬 絢子 木本 圭子
 工藤 太郎 國村 大喜
 齋田 正幸 清水 光
 杉山 浩太 高橋 梓帆美
 高見 知里 辻 翔平
 富田 有一 中澤 聖人
 二田水 嘉彦 原 忠信
 牧野 暁世 宮川 潤次
 山内 貴博 吉岡 聖美
 李 惠宣 吳 方
 金 じゅひ 鄭 娥 英
 ADRIANA SILVIA CHANG FON
 崔 庭瑞 王 淑宜
 王 文雄 CHOI HONGSEOK

Won-Sup Kim

MATSUZAKI, Wagner Tetsuya

<退会>

*正会員 19名 (内外国人 1名)

池原 透子 梅田 晴郎
 大江 孝 大久保 輝亮
 梶田 耕平 加藤 ゆみ子
 河原 久美子 北川 剛一
 佐藤 勝彦 関 里繪子
 高橋 久弥 長井 崇
 長友 理一郎 永縄 正彦
 羽生 清 平野 雄宇
 宮木 英幸 吉坂 主旬
 金 哲浩

*賛助会員 1件

青森県立黒石商業高等学校
 情報デザイン科

*年間購読会員 2件

(株) 真光書店
 (株) 横浜日経社

◆平成21年度第1回理事会承認

2009.04.18

<新入会>

*正会員 60名 (内外国人 14名)

居郷 翔 伊丹 裕美
 市村 由貴恵 井村 旭宏
 上谷 慶太 大平 裕子
 大室 健 岡部 祥子
 落合 章吾 落野 夢佳
 柿沼 佐代子 金子 誠
 國本 篤矢 郷内 義浩
 児島 直樹 小林 由衣
 阪山 由衣子 櫻 哲郎
 澤村 英子 菅澤 伯子
 高尾 美沙子 高宮 浩平
 詫磨 紀子 津田 桜
 等々力 心太郎 内木 智草
 中村 昌平 名塚 ちひろ
 西川 貴 長谷川 知栄
 蛭田 直 笛木 慎太郎
 星田 浩貴 堀内 芳明
 前田 夏樹 松田 大輔
 水田 圭 三谷 篤史
 美馬 義亮 宮崎 亮一
 森川 洋 森島 央承
 山砥 克己 山本 英子
 弓立 順子 渡辺 一樹
 李 艶 林 韓燮
 楚 東暁 陸 雅然
 廖 雨詩 廖 莎
 撲 八龍 文 藝爛
 李 智媛 郁 海亮
 鄭 眞星 元 湖淵
 崔 廷源 鄭 修智

<退会>

*正会員 30名

大垣 友紀恵 鎌田 康昌
 工藤 俊之 古村 貴法
 近藤 裕樹 齋藤 宏幸
 榊原 晴勝 佐藤 尽
 佐藤 陵 篠原 久美子
 嶋村 幸仁 清水 敏成
 白石 和也 周藤 元郎
 辰巳 晃伸 田原 良作
 千葉 政継 長瀬 稔
 中園 芳暢 萩原 徹
 初島 さつき 濱本 皇心
 松尾 元道 松田 多加志
 松本 昇 松本 八州彦

三笠 晋 宮入 麻紀子
 面出 和子 渡辺 禎久

*賛助会員 4件

日本ビクター (株) デザインセンター
 名古屋芸術大学 デザイン学部
 三菱電機 (株) デザイン研究所
 TDK デザイン (株)

◆平成21年度第2回理事会承認

2009.05.23

<新入会>

*正会員 18名 (内外国人 5名)

阿部 芳子 石川 友里
 尾原 嘉那恵 北村 武士
 齋藤 靖 阪野 史子
 田澤 秀司 多田羅 景太
 田場 直也 鶴見 洋介
 中西 美和 長谷川 聡
 松本 幸祐 王 楷
 金 石振 朴 志勲
 劉 洋 劉 夢非

*年間購読会員 1件

オリオン書房

<退会>

*正会員 5名

浦山 英記 駒崎 浩代
 中塚 慧 宮沢 功
 吉原 輝美

◆平成21年度第3回理事会承認

2009.06.26

<新入会>

*正会員 21名 (内外国人 5名)

氏家 彰宏 内柴 宏文
 大泉 義一 北神 慎司
 吉良 康宏 坂本 泰宏
 関本 隆次 高中 公男
 高山 和也 中村 洋臣
 松田 晋幸 森 公一
 森山 貴之 八木 宏章
 山田 泰之 吉田 恵介
 金 度亨 Kim Yoon Hee
 Yun-Kyung, Kim Oh, Hyojung
 金 賢善

<退会>

*正会員 8名 (内外国人 2名)

飯尾 満 飯田 理恵
 河田 健一郎 菊池 翠
 中西 政美 廣瀬 吉嗣
 尹 泰九 華 嘉

第 57 回春季研究発表大会 開催地速報！

平成 22 年度第 57 回春季研究発表大会の開催地が決まりました。

開催地：長野大学 <http://www.nagano.ac.jp/>

日程：平成 22 年 7 月 2 日（金）～ 7 月 4 日（日）の予定

信州上田での開催ですので多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

* 上記日程は、あくまでも仮ですので、ご理解の程、よろしく願いいたします。

詳細が決まり次第、随時お知らせさせていただきます。

2009 年度作品集 募集のご案内

2009 年度デザイン学研究作品集

作品集創刊から 15 年目になり、世に多くの作品を知っていただく機会が増えただけでなく、論文とともにデザイン作品の重要性が評価されています。

今年度も様々なデザイン領域からのデザイン作品の募集を行いますので、多くのご応募をお待ちしております。

本年度の応募の詳細につきましては、2008 年度「デザイン学研究作品集」VOL.14 をご参照ください。

なお、会員が代表応募者の場合、会員以外の方も共同応募者として認められます。またこの機会に入会されご応募も出来ます。会員からも積極的な応募依頼をお願い申し上げます。

本年度の応募締め切り日は

平成 21 年 8 月 31 日月曜日です。(当日消印有効)

送付先 117-0042 東京都杉並区西荻北 3-21-15 ベルフォート西荻 703
日本デザイン学会事務局 作品審査・作品集編集委員会 宛

作品集に掲載された作品は、論文集に掲載された論文と同等と認められています。また学会賞など各種受賞の対象となっています。

より多くの会員の方々からの多彩な作品応募をお待ちしています。

日本デザイン学会作品審査・作品集編集委員会
委員長 長谷高史 2009 年 6 月

応募対象となる作品(原則過去 2 年以内に制作したもの)

A 類: 製品化あるいは施工され、具体化され社会的認知を得ている作品。

B 類: 研究的・実験的意味合いから試みられた提案・試作作品。

応募書類は学会ホームページからダウンロードして作成ください。

平成21年度秋季企画大会の案内

平成21年度秋季企画大会を下記の通り、実施します。ふるってご参加ください。また、同時に「学生プロポジション・学生の構想力」を開催します。

■日時：11月15日（日）10時から

■場所：拓殖大学・文京キャンパス C館

■テーマ：シミュレーション&プロトタイプ-工学知とデザイン知（仮）

■大会趣旨

近年、コンピュータの急速な発展とともに、様々な分野においてシミュレーション技術は急速な発展を遂げています。卑近な例では、コンピュータゲームも、シミュレーション技術を体現したものの一種といえます。これらは視覚化あるいは可視化技術としてのシミュレーションといえます。

しかし、それ以外にも、仮想の世界を構築、体験するバーチャルリアリティや試行錯誤の手段として利用する方法など様々な方向性をもったシミュレーション技術が発展しつつあります。

このように私たちに深く関わるようになったシミュレーション技術ですが、シミュレーションの結果のアウトプットの仕方には、様々な工夫が必要であり、デザインの役割（デザイン知）がクローズアップされてきています。

一方、デザインのプロセスを考えると、スケッチやモデルなどは、まさにデザイナーが試みるシミュレーションのひとつであり、簡単ではありますが、有効な技術と考えることができます。デザインではこのシミュレーションを通して、新たなカタチ（プロトタイプ）を創出することと直結しています。

今日、多様な役割を求められるデザインにおいて、新たなシミュレーションの手法（工学知）がデザインにおいても求められています。

そこで、本大会では「シミュレーション&プロトタイプ-工学知とデザイン（仮）」をテーマに、拡大していくシミュレーションとデザイン両分野における新しい融合の形を目指した先進的な事例を集め、新たなデザイン知の方向性を探ることを目指します。

■スケジュール

10：00～

学会行事：学会各賞授賞式

講演①：シミュレーション技術について概観します。

講演②：視覚化・可視化の地平線

昼休みには、同時開催の学生プロポジション、特別展示をご覧ください。

14：00～：

講演③：ボトムアップとトップダウンのシミュレーション

講演④：バーチャルリアリティからの発想

パネルディスカッション：シミュレーションからプロトタイプへ

懇親会

なお、講演題目は、現在の予定であり、変更されることがあります。

■詳細は、随時、学会ホームページ (<http://www.jssd.jp/>) とメールでご案内します。

☆学生プロポジション募集

テーマ：学生の構想力（昨年に引き続き）

場 所：拓殖大学・文京キャンパス C館 6階（予定）

☆詳細は、学会ホームページ (<http://www.jssd.jp/>) とメールでご案内します。

ふるってご参加ください。

企画委員会 委員長 尾登誠一（東京芸大）
研究推進委員会 委員長 古屋繁（拓殖大学）